

短期大学における教職科目に関する調査

白幡久美子・笠井 尚・桜井 利江

はじめに

1988年12月28日、「教育職員免許法等の一部を改正する法律」が公布された。それ以降、小学校教員免許状を課程認定できる短期大学はますます減少してきている。本学も2年間の在籍年数で小学校教員免許状を課程認定できる貴重な短期大学の一つである。

しかしながら、全国の教員養成系大学と同様に教員採用試験の合格者を輩出することは難しくなる一方である。ゼロ免課程を導入する大学、教員養成のカリキュラムを断念して廃止せざるを得ない大学も出てきている。

教員養成にとって適切なカリキュラムを編成することで、教員採用試験の合格率を高める方向を探る必要がある。

また、個々の学生がより意欲的に大学生活を送ることができるようにカリキュラムの改革を図りたい。

そこで我々は、初等教育課程を設置している短期大学の教職課程に関する実態調査を行うことにより、より適切なカリキュラムに改編する指針を得ることをめざし、次のような方法で調査を行った。

調査目的： 関東・近畿地方を中心に短期大学における初等教員養成教職課程カリキュラムの現状を把握し、初等教員の課程認定の主旨に適合したカリキュラムの内容・方法を究明し、本学の教育の改善に寄与することを目的とする。

する。

調査対象： 関東・近畿地方の初等教員養成系短期大学

調査方法： リストアップした全国の初等教員養成系短期大学の「カリキュラム」を郵送にて入手する。

各短期大学の教職課程カリキュラムの一覧表を作成する。

関東地方・中部地方・近畿地方の短期大学からそれぞれ特色のある大学を選び、訪問する。そして、教職科目担当者に直接今後の方針とそれに関するカリキュラムの組み方の方針を尋ねる。質問事項は一定のものとする。

全国47短期大学に調査を依頼した。そのうち回答があったのは36短期大学である。

調査期間： 1992年11月～1993年2月

以上の調査に基づき本稿を次のような手順でまとめた。

はじめに 白幡久美子

I. 全国小学校教員養成系短期大学一覧

白幡久美子、笠井 尚、桜井利江

II. 関東・中部圏短期大学訪問の記録とまとめ

白幡久美子

III. 近畿圏短期大学訪問の記録とまとめ

笠井 尚

おわりに 笠井 尚

日本史学科 : 100名
商学科 : 150名

I. 全国小学校教員養成系短期大学一覧

表1)は、『全国短期大学・専門学校受験案内』よりピックアップした。

この表からわかるように、全国の子短期大学のうち、小学校教員免許状を課程認定により得ることができるのは、47短期大学である。しかも、関東地方・中部地方・近畿地方の短期大学に多いことがわかる。

これらの小学校教員免許状を取得できる全国短期大学のうち、35の短期大学について、次の観点から比較し、表2)にまとめた。

- 入学定員—教職課程設置の規模
- コース制の有無—本学のコース制に準じたものがあるか否か
- 卒業要件—教職課程が含まれているか否か
- 教育実習がどのように位置づけられているか
- カリキュラムの特徴—特色あるカリキュラム、学生のニーズに応じたカリキュラムがあるか
- 教免の取り組み方—教員免許取得を義務づけているか否か
- ゼロ免の有無
- 教員採用試験への取り組み方
- 予備—短期大学独特の取り組みと思われるもの

以上の観点の記入は、各短期大学の学生便覧、時間割、開講表を手がかりとした。

II. 関東・中部圏短期大学訪問の記録とまとめ

1. 訪問の記録

【A校】

定員：国文科 : 150名
家政学科 : 100名
初等教育学科 : 100名

コース制：なし

カリキュラムの特徴：

小学校教員あるいは幼稚園教員になる事をめざして入学する学生が大半である。そのため現行の教員養成主体のカリキュラムになっている。

教育実習に関しては外部へ学生を出すという事で細心の努力を払っている。たとえば教育実習の事前指導の一貫として合宿も行っている。また、地元公立小学校の教員の直接事前指導も受けられるようにカリキュラムを組んでいる。

教免取得希望の状況：

臨時採用者も含めて毎年5割以上の卒業生が幼稚園あるいは小学校の教員になる。

今後の展望：

現在は特に改組など考えていない。カリキュラムの検討についても3学科より「A校4年制大学」への編入コースも作っているため、本学独自で変更することもできずなかなか進まない現状である。

【B校】

定員：保育科 一部：600名
二部：50名
初等教育学科 1部：300名
2部：50名
生活文化学科 : 250名
文学科 : 310名
音楽科 : 200名

コース制：教員養成コース : 100名
教育情報コース : 100名
人間教育コース : 100名

卒業要件と教職カリキュラム：

卒業必修単位：一般教育科目 : 8単位以上
外国語科目 : 2単位以上

保健体育科目：2単位以上

専門教育科目：66単位以上

合 計 80単位以上

カリキュラムの特徴：

一般教育科目「B校教育」で、大学祭参加、音楽的行事参加、親睦旅行等の行事を単位化している。

音楽の実技指導には非常に力を入れている。ピアノ個人レッスン室が100室位ある。学内に音楽ホールを設備し、外国の演奏者を招き定期的にコンサートを開催している。学生の参加も義務づけている。

教員養成コース、教育情報コースは教員免許状取得を必修としている。人間教育コースは、教員免許状取得を自由に選択することができる。したがって人間教育コースは、1割程度の教員免許取得率である。

教員採用試験受験のための特別講座を有料で開催している。在籍学生の過半数は受講している。教員採用試験合格率をアップさせることが教員スタッフの課題である。

教員採用の状況：

1992年度は5、6名の合格にとどまった。日本全国から学生が入学している。地元の採用試験を受ける。臨時採用で教員になっていく者も含めると教員になる割合は大きい。

今後の学科展望：

教育情報コースにゼロ免制を取り入れるか否かが課題となっている。現在のところ学生が集まっているので考慮していない。来年度入学試験も従来通りの受験者数なので今のところ、改革の必要性はない。

カリキュラム、時間割、クラス編成等：

教職科目が卒業要件になっている。月曜日から土曜日まで4～5時限制。

1クラス50名としてクラス担任制をとっている。クラス単位の指導を行っている。生活指導は厳しい。

【C校】

定 員：幼児教育学科一部：200名

三部：150名

初等教育学科：50名

経営実務科：100名

コース制：なし

卒業要件と教職科目の関係：

卒業要件の中に教職専門科目のうち12単位が含まれている（教育原論、教育心理学、道德教育の研究、特別活動の研究、臨床心理学、音楽科教育法、図画工作科教育法、体育科教育法）。

卒業必修単位：一般教育科目：12単位以上

外国語科目：2単位以上

体育科目：2単位以上

（計 64単位以上）

専門教育科目：48単位以上

カリキュラムの特徴：

専門教育科目の中で専門ゼミナール（2単位）を必修としている。この科目は初等教育学科と幼児教育学科の教員全員の担当により開講されている。各教員の設定したゼミのテーマを学生が希望選択する。

教育実習は全学生に取得させる。併せて教員採用試験も全学生に受験させる。教員採用試験の補習を有料で行っている。補習開始時は、毎年8割の学生が希望して受講するが、徐々に受講者数は減少する。

教免取得希望の状況：

資格取得に対する希望はとても強い。

教員志望率：

教育実習との関係で教員採用試験の受験を義務づけているので、ほぼ全員が教員採用試験を受験する。

教員採用の実状：

毎年数名の合格者がある。臨時採用教員並びに幼稚園教諭になる者を含めると5割以上の者

が教職につく。

今後の学科改組等の展望：

1985年に改組を試みてプロジェクトチームを作り報告書をまとめ、方向付けを行ったが、教員人事等の関係により中座している。今後改組の見込みはない。

【D校】

定 員：

- 生活科学科 : 80名
- 〔生活情報コース
環境デザインコース
国際コミュニケーションコース〕
- 食物栄養学科 : 100名
- 児童教育学科 : 100名
- 商経学科 一部 : 120名
二部 : 80名

卒業要件と教職科目の関係：

卒業要件の中に教職科目のうち小学校課程16単位幼稚園課程17単位が含まれている。

- 卒業必修単位：一般教育科目：12単位以上
- 外国語科目 : 4 単位以上
- 保健体育 : 2 単位
- 専門教育科目：計71単位以上

- 〔教職専門 17単位
保育内容 12単位
教科教育 12単位
教科専門 10単位
専門科目 2 単位〕

カリキュラムの特徴：

教員養成を主目的とする学科である。マーチングを2年間2単位で設定している。現在教育実習は必修になっている。小学校教員免許状、幼稚園教員免許状いずれも取得することが必要である。

教免取得希望の状況：

必修になっている関係上、学生の希望は問わない。

教員志望率と採用の実状：

全学生の5割程度が教員採用試験を受験する。しかし、合格率はきわめて低い。児童教育学科の学生の大半が幼稚園教諭になる希望を持っている。

今後の展望：

1994年度より教員免許状取得の義務をはずす。したがって教育実習を必修科目から除外する。これにより実習に不適切な学生を実習校へ送らなくてもよくなる。基本のカリキュラムに関しては現状のまま実施する。児童教育学科に入学した学生として、既存のカリキュラムをこなすことを目的とする。

【E校】

- 定 員：初等教育科： 40名
- 保 育 科：150名

コース制：学校教育コース
教育情報コース

卒業要件と教職科目：

卒業要件：

科目の種類	卒業必修	選択科目の履修要件
教養科目	3科目4単位	4科目8単位以上選択必修
専門教育科目	10科目20単位	30単位以上選択履修
合計	13科目24単位	38単位以上選択履修
総合計	62単位以上履修	

卒業必修科目の中に教職科目の一部を含む。

(教育学概論、児童発達心理学、教育情報論)

カリキュラムの特徴：2コース4類型に資格取得を分類している。

- 学校教育コース：Ⅰ類 小免に加えて幼免も取得
Ⅱ類 小免取得のみ希望
教育情報コース：Ⅲ類 小免取得を希望。但し情報関連科目は履修希望
Ⅳ類 教免取得は希望しない。情報関連科目をすべて履修する。

卒業研究を2年次に必修とする。

教員採用の状況：

教員採用試験の合格率は、非常に低い。但し副免取得者のうち、ほとんどの学生が幼稚園へ就職していく。

今後の展望：

教育情報コースを設け、ゼロ免も認めているのでこのまま様子を見ていく。卒業研究により学生の個別の研究課題に応じるようにしている。

2. まとめ

(1) コース制について

訪問校のうちコース制を採用しているのは、B校とE校の2短大である。いずれも2つか3つのコースに分けている。そして教員養成コースとゼロ免導入コースとを区別している。

(2) カリキュラムについて

専門教育科目の1つとしてゼミナールないし卒業研究を課している短大が多い。専門性を重視して卒業研究を短大のカリキュラムとして採用する事により個々の学生のニーズに応ずる教育が可能になるとと思われる。そのためには専門教育科目、特に本学の初等教育専門科目を検討する必要がある。

教職科目は訪問短大いずれも10単位以上を卒業要件にしている。教育専攻の学生である以上、当然単位取得すべきであるという考えにたっている。本学の場合、教職科目が全く卒業要件に入っていないのでカリキュラムが煩雑になって

いる。今後整理する必要があると思われる。

(3) 教育実習について

教員養成主体のカリキュラムを設けている短大では教育実習も必修科目としている。

D校の場合は、平成6年よりゼロ免制を導入する。したがって、現在必修科目である教育実習を選択科目にすることになる。しかし、ゼロ免の学生のために特別のカリキュラムは用意しない。

教育実習を行う条件として教員採用試験の受験を義務づけている短大もある。また、教員採用試験受験講座として補習を有料で開催しているところもある。学生の出席率が9割程度ということで、非常に割合が高いことも注目に値する。

教育実習については、訪問した全短大が非常に神経を使っており、教育実習事前指導の充実、実習関係専門職員の配置など、工夫を凝らしている。

以上、本学において今後検討すべき点をいくつかあげながらまとめた。特に教職科目を初等教育専攻の必修科目にすることは必然であろう。

Ⅲ. 近畿圏短期大学訪問の記録とまとめ

1. 訪問の記録

【F校】

生活学科 生活学専攻：80名

食物学専攻：30名

初等教育学科：30名

幼児教育学科 第一部：50名

幼児教育学科 第二部：50名

初等教育学科

入学定員：30名

コース制：なし

卒業要件と教職科目の関係：

卒業要件に教職専門科目（国語科概論、教育原論、教育心理学）も含まれる。基礎ゼミ、専門

ゼミ、卒業研究指導必修。

卒業必修単位：一般教育科目	12単位以上
外国語科目	2 単位以上
保健体育科目	2 単位
専門科目	46単位以上
計	62単位以上

カリキュラムの特徴：

学科は小規模である。カリキュラムは、ほとんど教職専門科目（教科・教職）である。特徴的な点は、ゼミによる少人数での研究指導にある。基礎ゼミ（1年）から専門ゼミ（2年）へと系統的な指導を目指している。基礎ゼミは、年度の終わりに400字×30枚程度のまとめを提出させる。1年次10月に、卒論の予定テーマに関係するゼミを選択する。テーマは2年次はじめに提出し、論文は2年次1月中旬までに400字×50枚程度のものを提出する。論文に関する面接試験も課される。ゼミ指導は、教員1人当たり学生10名程度である。論文を質の高いものとするために、執筆指導にあたっては教員にかなりの負担がかかっている。また、レクリエーション指導者資格を用意しているが、取得者は半数に満たない。

教免取得希望の状況：

教職科目が卒業単位となるため、ほぼ全員が取得する。

教員採用の状況：

就職では、幼稚園の採用はある（7、8人）が、小学校はほとんどなく、この10年ほどの間に（浪人で）1名あった程度である。

今後の展望：

幼児教育学科の志願者がほぼ従来通りである一方で、初等教育学科は受験生減少の傾向にある。この状況に対して、学科あるいはカリキュラムについて大きな変更の予定はない。学生指導にあたって、多くの文章を書かせるという作業を重視し、ゼミを通して、考えをまとめたり、

発表したりするという学習内容面での充実をはかっている。

【G校】

文学科 国語・国文専攻	: 260名
英語・英文専攻	: 260名
初等教育学科	: 200名
生活科学科 食物栄養専攻	: 260名
生活造形専攻	: 260名

初等教育学科

入学定員：200名

コース制：なし

卒業要件と教職科目との関係：

卒業要件に教職専門科目も含まれる。教育原論、教育心理、同和教育論必修。

卒業必修単位：仏教学	4 単位
一般教育科目	12単位以上
外国語科目	2 単位以上
保健体育科目	2 単位
専門科目	46単位以上
	(内、必修6 単位)
計	66単位以上

カリキュラムの特徴：

これまでは、典型的な教職専門カリキュラムであった。1年次には教育学に関する教職専門科目、教科専門科目を中心に、2年次は教材研究、保育内容研究を中心に履修する。

平成4年度入学生よりゼロ免対応のカリキュラムを実施する。しかし、建て前上は免許取得を目指しているため、これは消極的な位置づけである。ゼロ免対応の「人間関係科目」として、実技系の発展的科目（演劇、ビデオ・アート、パフォーマンス、造形表現、課題研究等）を用意している（2年次）が、平成5年度に実施してみるまでは状況はつかめない。

資格は、司書、社会教育主事なども取得可能であるが、平日の5時間目や土曜日の午後などにも授業があり、時間割上の負担が大きい。

教員採用の状況：

平成3年度卒業生で10名程度見受けられるが、非常勤を含むと解される。

今後の展望：

当該地区でも「老舗」的存在のため就職（一般企業）も安定しており、必ずしも早急な改革が求められているわけではない。とはいえ受験生は全般的に減少の傾向にある。

平成5年度より実施される人間関係科目では特色ある科目が用意されているが、系統性が欠如している点が危惧されている。それらを定着させるかどうかはしばらく様子を見ないとわからない。

【H校】

国文学科	: 150名
家政学科	: 300名
児童教育学科 初等教育専攻	: 200名
幼児教育専攻	: 100名
体育学科	: 80名
英文学科	: 150名
観光学科	: 100名
デザイン美術学科	: 100名

児童教育学科 初等教育専攻

入学定員：200名

コース制：なし

卒業要件と教職科目の関係：

卒業要件に教職専門科目も含まれる。教科専門科目から5教科10単位以上、教育学に関連した教職科目から8単位以上、教科教育法から6教科12単位以上、および、教育学、教育心理学、各教科に関する演習の内、1科目5単位（論文2単位を含む）以上必修。

卒業必修単位：一般教育科目	8単位以上
外国語科目	2単位以上
保健体育科目	2単位
専門科目	50単位以上
.....	
計	62単位以上

カリキュラムの特徴：

平成5年度入学者から週5日制を実施するため、カリキュラムの一部の科目を開講しない。初等教育専攻は、幼児教育専攻に入学できない者のバイパスコースとしての役割ももっている。典型的な教職専門のカリキュラム構成である。1年後期、2年通年で、教育学、教育心理学、各教科のいずれかのゼミを選択し、卒業論文（400字×30枚）を作成する。

教免取得希望の状況：

ゼロ免は少数派であり、ほとんどが取得する。

教員志望と採用の状況：

希望者は1クラスあたり4～5名（6クラスで24～30名程度）。本年度現役で近畿圏で2名採用。ちなみに、体育学科から中学校教員に10名を越えない程度ではあるが採用される。

今後の展望：

定員を割るような状況ではないので、大きな改革の予定はない。定員を割れば改革の可能性もある。幼児教育専攻のバイパスコースとしての役割から、幼稚園教諭免許状のみでよいという学生が含まれており、その関係で教職専門科目の一部（教科教育法）の負担を軽減する予定がある。

2. まとめ

以下、本学との比較を意識しながら、近畿圏短大訪問のまとめを行う。

（1）コース制に関して

訪問校はいずれもコース制を採用していなかった。とくに、G校、H校は、規模的にみて本学初等教育専攻と同程度であるが、クラス編制があるのみで、コースには分かれていない。その点、本学の7コース制（及びそのために用意されたカリキュラム）は、他校と比べても特徴的である。

訪問校を含めて、近畿以西の一部の短大では、コースではなく学科そのものに分化しているも

の(体育学科、音楽学科)が見られる。本学では、コース制によりこのような専門性を保証しているといえる。

(2) カリキュラムについて

訪問校では、従来の教員養成中心のカリキュラムを実施しており、改革を組織的に計画していない。G校のように、ゼロ免対応を意識した科目の導入も行われるようではあるが、その効果についてはまだ明らかになっていない。この点、本学のカリキュラムには、多様性が見られる。コース専門科目はもちろんのこと、共通専門科目にも工夫がなされている。ゼロ免対応も進んでいると考えられる。

訪問校ではゼミ制により、少人数での指導を充実させていた。本学のコース専門科目で、このような少人数での行き届いた指導がなされているかどうかを確認する必要はあると思われる。

本学では教職専門科目は卒業単位に算入されない。したがって免許取得者の取得単位数は膨大なものとなっている。カリキュラムの改革は、ふたつの方向を基本とするべきである。ひとつは、ゼロ免希望の学生への対応を充実する方向で、もうひとつは教員採用実績の向上を目指して教職指導に力を入れる方向である。その際には、教職専門科目を卒業単位として認めておく必要がある。

カリキュラムへの対応は、ゼロ免にも関わって考えると本学の動向は現在のところでは先手を打っている状況にある。訪問調査からもわかるように、初等教育科のカリキュラムは旧来のままであることが多く、取り立てて先進的な動きが見いだされるものでもない。本学では、これまでの改革によって得られた特徴を残しながら対応することが妥当と考えられる。

おわりに

短期大学における初等教員養成は、新しい局面を迎えることとなった。

ひとつには、1980年代半ばからの国立の教員

養成大学・学部でのゼロ免課程の登場が示すように、教員養成全体の状況が変化の中で、短期大学の初等教育学科のカリキュラムも多様になりつつある。もうひとつには、短期大学の存亡にも関わって初等教育学科そのものを改組、縮小する動きがある。

今回の調査で見てきた短期大学の初等教員養成に関するカリキュラムの特徴については、およそ次のように分類できる。

- ①ほとんど従来の教員養成関連科目のままの構成をもつもの。
- ②教職・教科専門科目中心の構成であるが、若干の教科目を加えるもの。追加された科目は数的には少ない。ゼミナール、卒業研究のような形で少人数指導により学習・研究の充実を図っているものもある。
- ③消極的なゼロ免制を敷いており、卒業要件が必ずしも免許取得とは一致しないもの。学生による科目選択が保障されている。
- ④積極的なゼロ免制を敷き、コース制を取り入れる等の形をとりながら、教職科目以外の科目を多く用意したもの。

各短期大学ごとに、卒業単位の対象となる科目、コース制の有無、ゼロ免の導入等は異なった状態にある。訪問調査の結果からわかるように、実際に志願者を確保できている短期大学は、取り立てて大きな変革を予定していない。しかし、カリキュラムを全国的に見れば、①秘書士、司書、レクリエーション指導者等の資格を取得可能にする科目の用意、②教養関連科目の追加、③コース制の採用による多様化・準専門化といった傾向がとらえられる。単なる初等教員養成にとどまらないカリキュラム編成が実施されていることは、容易に確認できよう。

課程の目的との関連から考えるならば、2つの方向で整理ができる。教員養成にさらに力を入れ、採用者を増やす努力が行われている一方で、課程の特徴を生かしながら科目の多様化を図り、カリキュラムの質的・量的充実を進める方策がとられている。

学生の意欲的な学習・研究活動の保障のためには、上のような政策を整合性のあるものとし

て具体化していく必要がある。カリキュラム再編成の方針を明確にした上で、クラスあるいはコース編制、時間割といった運営上の問題点の克服が課題となる。

付記

今回の調査にあたっては、神谷一三理事長先生、神谷みゑ子学長先生、前児童教育学科長の小林良夫先生のお力添えをいただきました。

白幡久美子・桜井 利江

—児童教育学科・初等教育・教育情報—

笠井 尚

—児童教育学科・初等教育・国際教養—

表1)

地区別	学 校 名	住 所	T E L	取得資格・その他
北海道	北海道女子短期大学	069 北海道江別市文京台23	011-386-8011	幼
関 東 10	國學院大学栃木短期大学	328 栃木県栃木市平井町608	0282-22-5511	幼
	関 東 短 期 大 学	374 群馬県館林市成島625	0276-74-1211	幼・図書館司書
	埼玉純真女子短期大学	348 埼玉県羽生市下岩瀬430	0485-62-0711	幼・司書・司書教諭・ 秘書士
	聖徳大学短期大学部	731 千葉県松戸市相模台531	0473-65-1111	レク指導・キャンプ指 導者初級(人間教育)・ 幼・司書教諭・秘書士
	清和女子短期大学	292 千葉県木更津市東太田3-4-2	0438-98-7488	幼
	千葉敬愛短期大学	285 千葉県佐倉市山王1-9	0434-86-7111	幼
	千葉経済短期大学	260 千葉県千葉市轟町4-3-30	0472-55-3451	幼・司書・司書教諭
	鎌倉女子短期大学	247 神奈川県鎌倉市岩瀬1420	0467-44-2111	幼・保母(一部)
	昭和女子大学短期大学部	154 東京都世田谷区太子堂1-7	03-3411-5111	幼
	東京女子体育短期大学	168 東京都国立市青柳谷川上620	0425-73-7453	幼
中 部 7	名古屋市立保育短期大学	488 愛知県尾張旭市平子町北59	0561-53-2021	幼(学校教育コースと 教育情報コース)
	東海大学短期大部(静岡)	422 静岡市宮前町101	054-261-6321	幼
	中部女子短期大学	051-32 岐阜県関市倉知向山4909	0575-22-4211	幼・司書・司書教諭
	東海女子短期大学	504 各務原市那加桐野町	0583-83-1148	幼・司書教諭・秘書士 (情報)・レクリエーシ ョン2級指導者(心理)
	岡崎女子短期大学	144 愛知県岡崎市中町1-8-4	0564-22-1295	幼
	江南女子短期大学	483 愛知県江南市高屋町大松原175	0587-55-5800	(教養学科に改組申請 中)
	名古屋自由学院短期大学	481 愛知県西春日井郡師勝町熊之庄古井281	0568-24-0321	幼・司書教諭
近 畿 19	暁学園短期大学	512 三重県四日市市萱生町字城山238	0593-37-2345	幼・レクリエーション 指導者
	滋賀文教短期大学	526 滋賀県長浜市田村町335	0749-63-5815	幼・司書教諭
	京都女子大学短大部	605 京都市東山区今熊野北日吉町35	075-531-7054	幼・司書教諭
	京都文教短期大学	611 京都府宇治市槇島町千足80	0774-25-2408	幼・レクリエーション 指導者
	聖母女学園短期大学	612 京都市伏見区深草田谷町1	075-643-6781	幼
	大阪薫英女子短期大学	566 大阪府摂津市正雀1-4-1	06-383-6441	幼
	大阪女子短期大学	583 大阪府藤井寺市春日丘3-8-1	0729-55-0733	幼

地区別	学 校 名	住 所	T E L	取得資格・その他
近 畿	大阪信愛女学院短期大学	536 大阪市城東区古市2-4-30	06-939-4391	幼
	大阪成蹊女子短期大学	533 大阪市東淀川区相川3-10-62	06-340-1515	幼
	P L学園女子短期大学	584 大阪府富田林市喜志2680	0721-24-5131	幼・秘書士
	東大阪短期大学	577 大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1	06-782-2884	幼・司書教諭・秘書士 ・レクリエーション指導者(国際文化コース)
	神戸女子短期大学	650 神戸市中央区中山手通2-23-1	078-231-1001	幼
	夙川学院短期大学	662 兵庫県西宮市こしき岩町6-58	0798-73-3755	司書・司書教諭
	姫路学院女子短期大学	679-22 兵庫県神崎郡福崎町高岡	0790-22-2620	幼・秘書士・レクリエーション指導者
	兵庫女子短期大学	675-01 兵庫県加古川市平岡町新在家2301	0794-24-2675	幼・秘書士・レクリエーション2級指導者
	湊川女子短期大学	669-16 兵庫県三田市四ツ辻1430	0795-68-1381	幼
	武庫川女子短期大学部	663 兵庫県西宮市池開町6-46	0798-47-1212	幼・司書教諭
	桜井女子短期大学	633 奈良県桜井市桜井502	07444-3-1003	幼
	奈良佐保女学院短期大学	630 奈良県鹿野園町806	0742-61-3858	幼
中 国	山口短期大学	747-12 山口県防府台道1346-2	0835-32-0138	レクリエーション指導者・秘書士(教育情報) ・幼(教育情報除く)
四 国 2	四国大学短期大学部	771-11 徳島市応神町古川	0886-65-1300	幼・レクリエーション指導者
	高松短期大学	761-01 高松市春日町960	0878-41-3255	幼・レクリエーション指導者
九 州 8	九州女子短期大学	807 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-691-0591	幼
	佐賀女子短期大学	840 佐賀市本庄1313	0952-23-5145	幼
	別府大学短期大学部	874-01 大分県別府市北石垣82	0977-67-0101	幼
	九州女学院短期大学	860 熊本市黒髪3-12-16	096-343-0345	幼
	宮崎女子短期大学	889-16 宮崎県宮崎郡清武町加納丙1415	0985-85-0146	幼
	鹿児島短期大学	890 鹿児島市永吉町450	0992-55-1271	幼・司書・司書教諭・秘書士
	鹿児島女子短期大学	890 鹿児島市紫原1-59-1	0992-54-3131	幼
	沖縄女子短期大学	902 沖縄県那覇市長田2-2-21	098-854-1156	幼

計 47校

表2)

地区別	学 校 名	入学定員	コース制有無	卒 業 要 件		
				単位	内 容	実習の有無
関 東	國學院大学栃木短期大学	100	なし	64	小87 幼89	必修
	関 東 短 期 大 学	初等教育 150(300)	なし	67		必修
	埼玉純真女子短期大学	50(100)	なし	66	一般教養12 教職必修14 外国語 2 選択36 保健体育 2	含まず
	聖徳大学短期大学部	初等教育 学科 1部:300 2部:50	・3コース 教員養成100 教育情報100 人間教育100	80	・教員養成・教育情報は 教職必修 ・人間教育は選択	・教員養成・ 教育情報 必修
	千葉経済短期大学	100(200)	なし	68	一般教養12 教職34 保健体育 3 自由 4 教科専門15	
	昭和女子大学短期大学部	100(200)	なし	68	教養 8 保健体育 2 文化講座 6 外国語 6 専門 30 余裕単位16	・実習Ⅰ・Ⅱ 必修2単位 ・実習Ⅲ 選択
	東京女子体育短期大学	児童教育 学科	幼稚園コース 小学校コース	幼74 小75		5単位必修
中 部	名古屋市立保育短期大学	保育科150 初等教育 40	〔学校教育 教育情報	62	・一部教職専門科目を含む	5単位
	東海大学短期大部(静岡)	児童教育 100	なし	71		必修 (1994年度より ゼロ免制)
	岡崎女子短期大学	初等教育 学科 50	なし	64	・教職科目12	必修 ・採用試験 も必修
	名古屋自由学院短期大学	児童教育 学科(50) 二部(50)	なし	62	一般教養12 専門46 外国語 2 保健体育 2	含まない

カリキュラムの特徴	教免の取り組み方	予備
<ul style="list-style-type: none"> ・地元公立小学校とのタイアップにより実習事前指導を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・免許状必修 	<ul style="list-style-type: none"> ・5割以上の卒業生が教職に付くので改組は考えていない
	<ul style="list-style-type: none"> ・小・幼可 	<ul style="list-style-type: none"> ・5 限制
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育関係の科目が多い 〃 選択肢が多い ・教員養成系列のカリキュラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・幼 選択 ・教育実習は学科長が許可 	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格取得可 (初等専門科目にも入っている)
<ul style="list-style-type: none"> ・「聖徳教育」一般教養科目 ・行事などを単位化 ・ピアノに力を入れる実技指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用試験受験のための特別講座を有料で行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国から志願者があり大規模短大 ・専攻科設置
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 1年次 演習(1): 観察 (6単位) 2年次 実習(5): 実地実習 		<ul style="list-style-type: none"> ・単位履修を5タイプに分けクラス分けする ・教科研究(卒論)あり
<ul style="list-style-type: none"> ・文化講座: 女性教養・文化研究・特殊研究 (6単位) ・大学・短大の科目取得交流あり (15単位まで) ・教育実習Ⅰは観察、Ⅱ、Ⅲは参加実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅰ・Ⅱ必修Ⅲは選択 ・1年次: 観察と参加Ⅰ ・2年次: 体験と3単位 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究(4単位) ・余裕単位各学科で
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に関係する科目を1年次に配列。教職科目を必修に置く 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制(幼・小・幼少) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職科目・専門科目を1年次。 ・一般・語学を2年次 ・卒業研究4単位
<ul style="list-style-type: none"> ・2年次に卒業研究が課されている(必修) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロ免あり(情報科目を5科目必修) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小免のみが副免
<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成主体のカリキュラムを崩す考えはない。マーチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・小免、幼免いずれも実質必修 	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門ゼミナールを必修で設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用試験の補修を有料で行う。学生の8割が受講 	<ul style="list-style-type: none"> ・1986年にプロジェクトチームを作り、学科改組を計ったが中座している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習(4+1単位)選択 ・実習は講義を含め4単位。学校は2週間 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間が短い ・追再試は有料

地区別	学 校 名	入学定員	コース制有無	卒 業 要 件		
				単位	内 容	実習の有無
関 西	暁 学 園 短 期 大 学	30	なし	62	卒業研究 2 単位必修	
	滋 賀 文 教 短 期 大 学	50	2 コース 初等教育 総合科学	64	教養 18 専門42 外国語 2 保健体育 2	
	京 都 女 子 大 学 短 大 部	200	なし	66	仏教学 4 単位必修 教職専門必修 6 選択40	
	京 都 文 教 短 期 大 学		3 コース 小学校 40 幼稚園 40 文化・情報60	62	文化・情報コースはゼロ 免であるが、初等教育研 究(小・幼にはない) 必修。	小コース、小 4週・幼1週 幼コース、小 1週・幼4週
	聖 母 女 学 院 短 期 大 学	130	なし	70	キリスト教学 2 単位× 2 教養 14 保体 2 外国語 4 専門50	
	大 阪 薫 英 女 子 短 期 大 学	100	なし	62	教養 8 専門50 外国語 2 保体 2	I 1 単位 II 5 単位 III 1 単位
	大 阪 女 子 短 期 大 学		2 コース 初等教育 60 国際教育・ 情報 40	66 72	教科 8 科目および 教職 5 科目必修 養18+専門(必28+選20) 養24+専門(必28+選20)	I 1 II 4 III 幼実習 1
	大 阪 信 愛 女 学 院 短 期 大 学	100	なし	62	教科 4 科目、教職 7 科目 必修。 小・幼を取得して卒業す れば99単位	小・幼各 5 単位必修
	大 阪 成 蹊 女 子 短 期 大 学	200	なし	62	卒業研究を含む	
	P L 学 園 女 子 短 期 大 学	100 (5コース 10ルート)	初等教育コース: 小学校ルート 秘書コース:秘・ 小ルート	62 66	PL教義必修	小免取得ルー トは、2年 6月3週必 修
	神 戸 女 子 短 期 大 学	80	なし	62 (72)	卒業論文 2 単位必修	前・後期各 2 週間、必修
	兵 庫 女 子 短 期 大 学	100	2 コース 小学校・幼稚 園 教育情報	64	宗教学 4 ゼミナール 2 (2 年次通 年)	観察 1 週、 本実習 3 週

カリキュラムの特徴	教免の取り組み方	予備
ほとんどが教職関連科目。基礎ゼミ1単位、専門ゼミ2単位により細かな指導		レク指導員取得可
総合科学コース（ゼロ免）向けに情報処理、レク、教養科目など15科目設定。ほとんどが必修。	希望者を対象に教採特別研修（1年3月12コマ、2年7月15コマ）実施。	
人間関係14科目、関連6科目を新しく加えた。		2クラス。平日5限、土曜3限あり。司書、司書教諭講習6限 18:10-19:40
実習：小コース、2年6月4週（小）+9月1週（幼）。幼コース、1年2月2週・2年6月2週（幼）+2年9月1週（小）。	小学校コース：現役または2、3年後に教採合格を目指す。	レク2級取得可。5限あり。
実習：6月、10月に前後期各2週（計4週）。小・幼取得者は、4週+2週。		5クラス 専攻科あり。
実習Ⅲは（幼）事後指導。幼免に力を入れている。教養的科目21科目。海外研修（アメリカ）あり。	（教育実習認定テスト、1年）	
国際教育・情報コース向けに教養関連10科目、及び秘書科目を用意（選択）。		平日5限、土曜3、4限あり。小免取得者に+αとして幼稚園実習を用意。
キリスト教科目（教養）必修。児童文学、育児学、リトミック、障害者福祉論、女性論必修。実習：小2年前期4週、幼1年後期毎週金曜+2年前期2週	幼免取得が必修。小の実習は選択必修。	5クラス。幼に力を入れた初等教育学科。小免のみの取得はない。
演習を1科目5単位（卒論2単位を含む）選択必修。	小免は免許法の規定単位による。	
必修科目はルートにより多様。小免取得は2ルートのみ。	初等教育（小学校、初・幼）、秘書（秘書、秘・小、秘・幼）、英語（英語、英・秘）、バトン（バトン、バトン・幼）、教養（教養）。（ ）内がルート。	
保育内容の研究必修。	全員が、幼・小とも免許を取得。	3クラス
教育情報科目あり。	就職活動の一環で教採模擬試験、直前対策講座を実施。	小・幼：小、幼、レク 教情：小、レク、秘書士

地区別	学 校 名	入学定員	コース制有無	卒 業 要 件		
				単位	内 容	実習の有無
関 西	湊川女子短期大学	50	4コース 幼児音楽 幼児体育 幼児絵画 児童文化	70	卒業研究2単位必修 教養 12 外国語 2 保健体育 2 専門 54	
	武庫川女子短期大学部	(250)	なし	62	初期演習 4	I 前指導 2 II 4
	桜井女子短期大学	3コース で(100)	2コース 初等教育 情報教養	66	卒業研究1単位必修 教科6科目必修	
	奈良佐保女学院短期大学	150	なし	62	教養8+英語2+体育2 専門50(卒、小免) 63(幼・小免)	幼・小取得の 場合各2週間 計4週間
中 国	山 口 短 期 大 学	50	2コース 教員養成 教育情報	68	教科5科目必修 専門必修30 選択22	
四 国	高 松 短 期 大 学	100	2コース 児童教育 教育情報	72	卒業研究3単位必修 教科3科目必修	6単位(事 前指導2単 位を含む)
九 州	九州女子短期大学	100	なし	62	教科4科目必修 専門必20+選30	
	佐賀女子短期大学	80	3コース 教育情報 教養A、B 音楽	62	教科6科目必修	
	九州女学院短期大学	50	なし	68	キリスト教学2単位×2 専門48単位以上	5単位必修
	宮崎女子短期大学	80	なし	66	教科4科目必修	
	鹿児島短期大学	200	なし	65	演習4単位 教養16+専門49	
	鹿児島女子短期大学	100	なし	62	教科 必14+選12 教職 必10+選10	小2単位 幼4単位

カリキュラムの特徴	教免の取り組み方	予備
卒業要件は初期演習（宿泊研修、学校行事を含む）のみ。	小免は免許法の規定単位に従う。	教養科目は全学共通でテーマ式。5限あり。
教科・教職とも必修科目が多い 幼免科目も必修		
卒業必修は少ない。小・幼免取得者は、免許法の規定による科目必修。		6クラス
ゼロ免の場合、レク科目を卒業単位に充てることができる。ゼロ免向け教科教職科目あり。教情コースに秘書科目あり。		教員養成：小、幼 教育情報：小、秘
レク科目は卒業単位に算入できる。B～Eの選択科目群を用意。		児童教育コースには、児童教育、体育レクリエーションの2専修がある
小免は教科教育法：国、社、算、理必修 伝統的な教科・教職科目で構成		
コース専門科目が20程度用意されている。教育特論Ⅳ（教情）：教採の教職教養対策のための授業。小免取得の場合、教科教育法全9科目必修。		4クラス 教情は幼免取得不可 社会教育主事あり （5限、土曜3限）
結果的には全員が免許を取得して卒業することになる。実習小・幼各2週		
教科教育法全9科目必修	教採対策特別講座	3クラス
		6クラス 専攻科あり
小免取得者は、幼稚園実習も参加。小2週、幼4週。		3クラス